

建築文化奨励賞

景観上優れた建築物

ワンルームマンションの新しい景観

コルテ松波

コルテ松波は周辺に学校や公園のある閑静な住宅街に位置するワンルームの集合住宅である。以前は企業の社員寮として使用されていたが、一般賃貸にするにあたって改修が行われた。

地域に通じる中庭を介して建つ2棟は、渡り廊下と階段で繋がっている。個を重視する佇まいから、改修を機に2つの仕掛けが用意された。

1つめは、中庭を住戸の延長となるような場所にしたことである。中庭に面したバルコニーの亚克力製手摺は丸型の穴をあけた溝型網の手摺に変えた。住人はそこに観葉植物や趣味のものを置き、各々の日常生活が溢れ出すことで自ずと住民の顔が見えるようになった。

2つめは、賃貸しても人気のない1階を共有空間にしたことである。住人はポストルームに立寄り、洗濯の合間に会話するといった交流の場となった。さらに地域に開かれたイベントなど積極的な利用が見られるようになったそうだ。

希薄になりがちな現代の都市生活にあって、これらの試みは住人にも周辺にも集合住宅の新しい景観をもたらしたといえる。そして今後どのような展開があるのか。住人と共に成長するコルテ松波に期待している。（藤本香）



外観全景



中庭にソファを出して青空リビング

7

建築文化奨励賞

ユニバーサルデザインに配慮した建築物

細かな配慮とゆとりある空間

マザー牧場 まきばトイレ

マザー牧場は、東京から日帰りで訪れることのできる観光牧場の草分けである。創立50周年を迎えるにあたり、施設の更新や拡充が現在進められている。今回の受賞対象は、まきばゲート付近にある新設の大型トイレである。ほぼ同時期につくられた案内所には、救護室やベビー室が完備され、貸出用のベビーカーや車いすも充実している。案内所については竣工時期が応募要件に合致しなかったものの、ゲート付近にある施設全体を、ユニバーサルデザインとして評価できる。

この「まきばトイレ」は、個々人にとって快適に用が足せるだけでなく、家族にとって豊かなトイレタイムをサポートしてくれている。男女分かれて入るトイレでは、出口での待ち合わせがつきものだが、広場に面したベンチでお連れさまをのんびり待つことができる。ベビーカーといっしょに入れるちょっと広めのブースや大型ベッドを備えた多目的トイレなど、小さなお子さん連れや重度の障がい者への配慮もうれしい。

マザー牧場を訪れて得られる「動物との触れ合い」はユニバーサルな楽しみだ。開園当初から、介助付きで車いすの方も園内を回れるように考慮されているという。今回のトイレは、マザー牧場のユニバーサル哲学の現れと解したい。

（岡部明子）

建築主：株式会社マザー牧場

設計：株式会社空間スタジオ

施工：有限会社光進建設

所在地：富津市田倉940-3



外観全景



木をいかした明るい室内※

（※撮影/山田 哲）